

## 鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料（平成 30 年 12 月）

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①③）

大分県監視カメラによる観測では、15 日に伽藍岳で噴気が稜線上 100m まで上がりました（11 月：50m）。鶴見岳では、噴気は認められませんでした（11 月：なし）。

- ・地震や微動の発生状況（図 2-②④、図 3）

火山性地震の月回数数は 3 回（11 月：8 回）と少ない状態で経過しました。このうち震源が求まった火山性地震は 2 回でした。

火山性微動は 2010 年 11 月の観測開始以降、観測されていません。

- ・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS<sup>1)</sup> 連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。



図 1 鶴見岳・伽藍岳 噴気の様相（12 月 15 日、大分県監視カメラによる）  
（図中の赤破線内は伽藍岳からの噴気を示しています）

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 31 年 1 月分）は平成 31 年 2 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

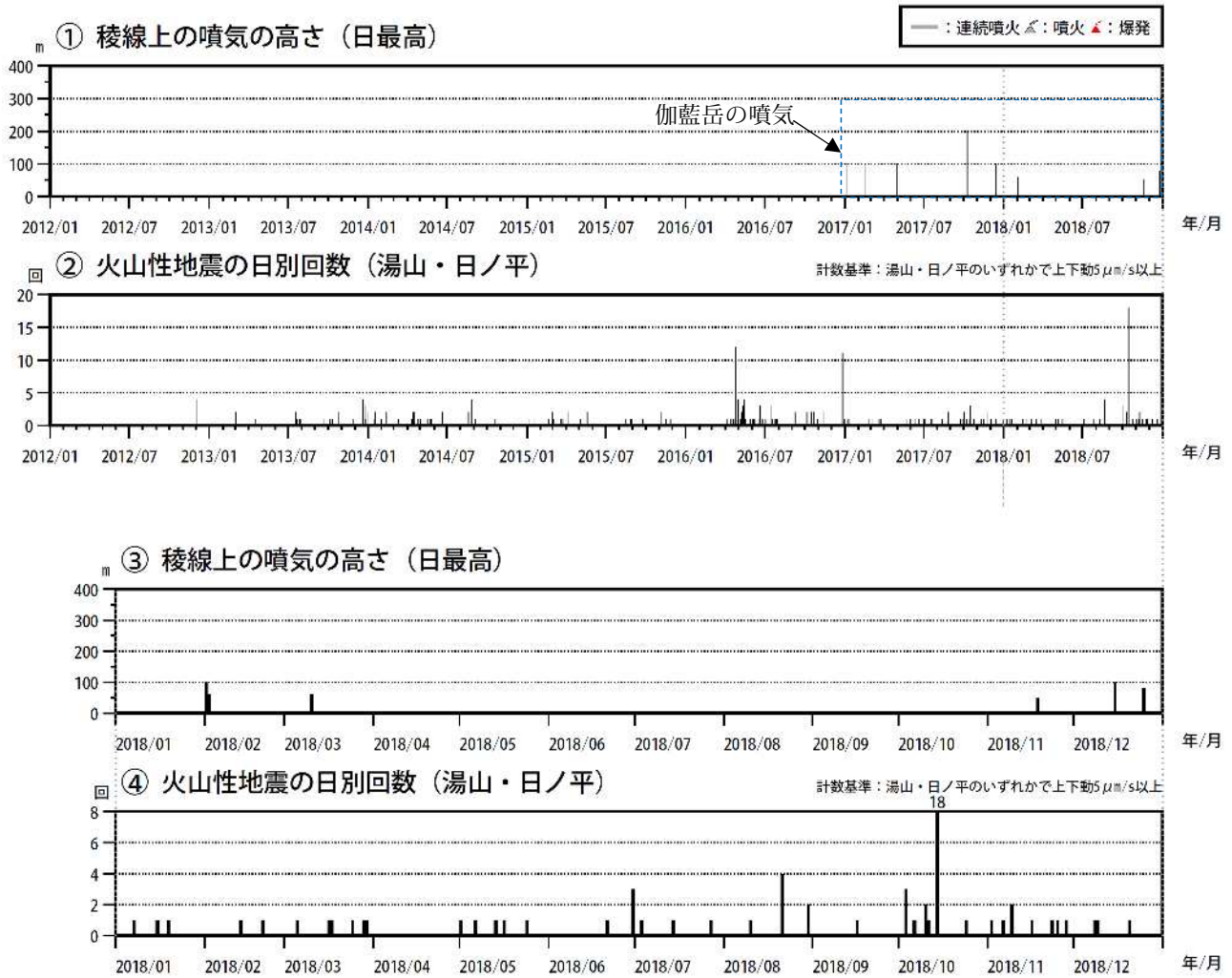
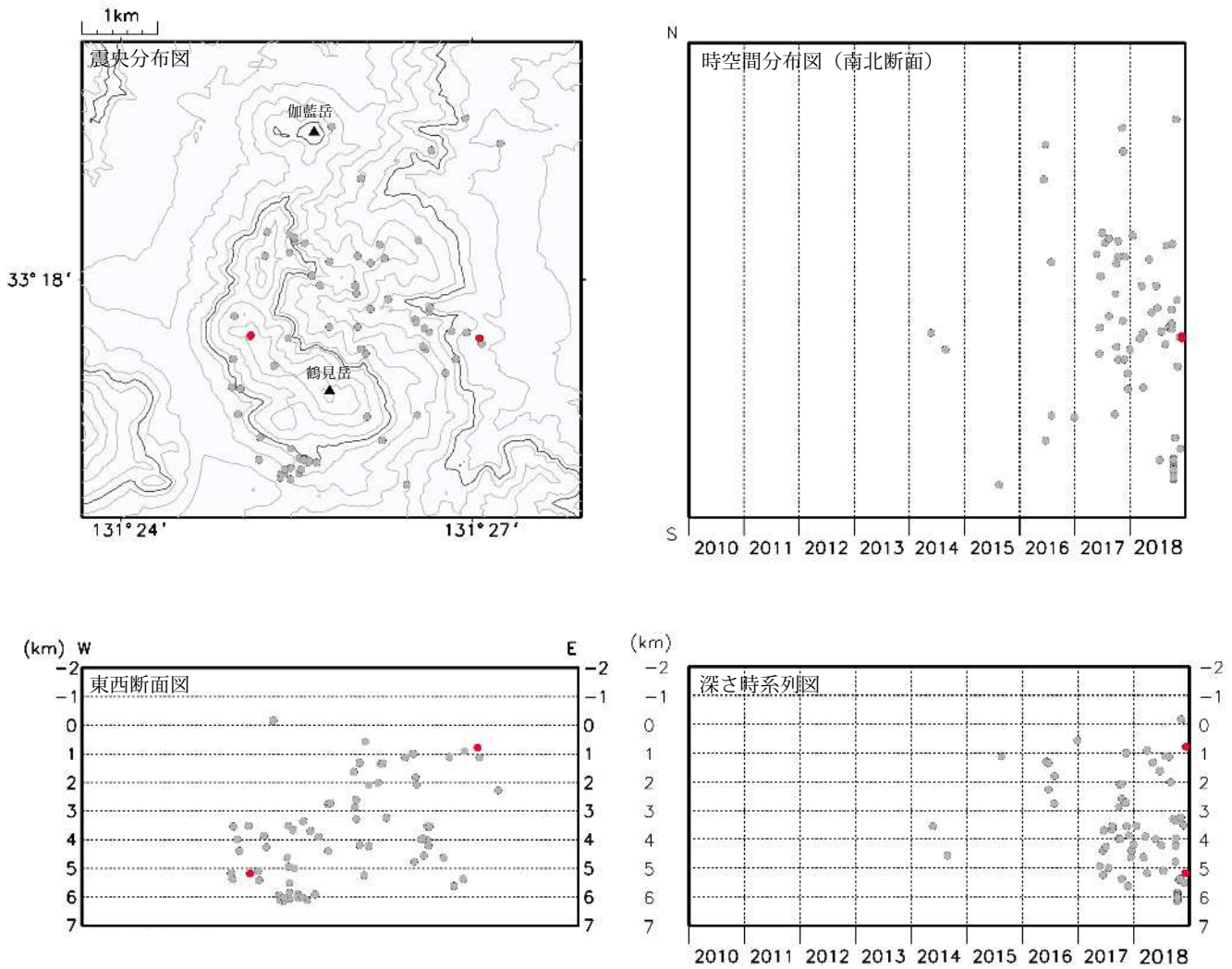


図2 鶴見岳・伽藍岳 火山活動経過図（2012年1月～2018年12月）

<12月の状況>

- ・大分県監視カメラによる観測では、15日に伽藍岳で噴気が稜線上100mまで上がりました（11月：50m）。鶴見岳では噴気は認められませんでした（11月：なし）。
- ・火山性地震の月回数は3回（11月：8回）と少ない状態で経過しました。
- ・火山性微動は2010年11月の観測開始以降、観測されていません。



- : 2018 年 12 月の震源
- : 2010 年 1 月～2018 年 11 月の震源

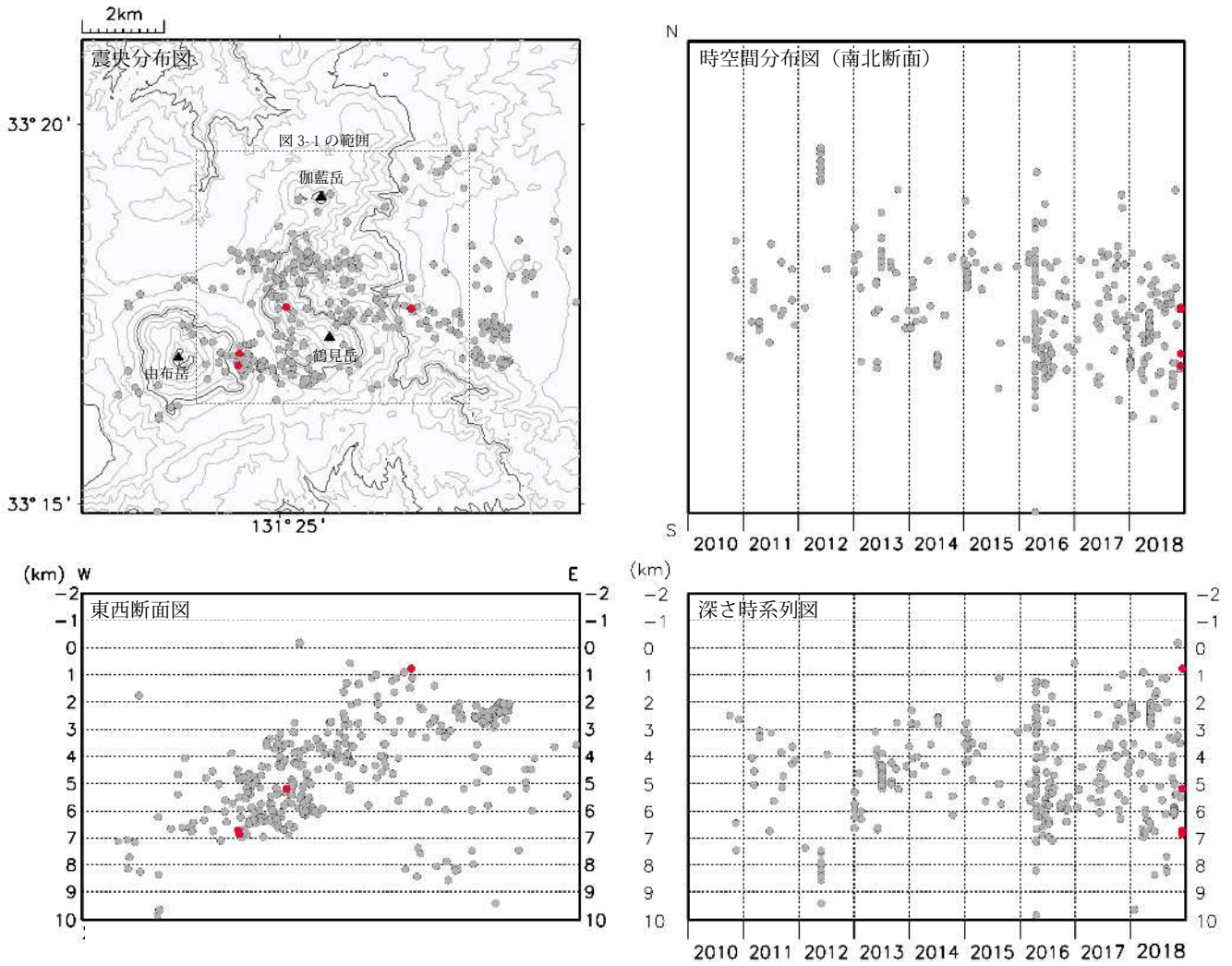
図 3-1 鶴見岳・伽藍岳 震源分布図（鶴見岳・伽藍岳付近の火山性地震）  
（2010 年 1 月～2018 年 12 月）

<12 月の状況>

震源が求まった火山性地震は 2 回で、鶴見岳の北西 1 km 付近と東 2 km 付近に分布しました。

鶴見岳と伽藍岳の山体直下で、震源の深さが 7 km 以浅の地震を表示しています。

2017 年 3 月 24 日の鶴見岳西山麓観測点の整備により震源決定の精度が向上しています。



- : 2018 年 12 月の震源
- : 2010 年 1 月～2018 年 11 月の震源

図 3-2 鶴見岳・伽藍岳 震源分布図（広域）（2010 年 1 月～2018 年 12 月）

<12 月の状況>

震源は鶴見岳付近のほか、鶴見岳の西山麓付近に分布しました。

図 3-1 に加えて、山体周辺及び山体下の深さ 10km までの地震を表示しています。

※近傍の観測点（湯山、日ノ平、内山北尾根、鶴見岳西山麓）において、P 波と S 波の到達時間差が概ね 1 秒以内の地震を掲載しています。

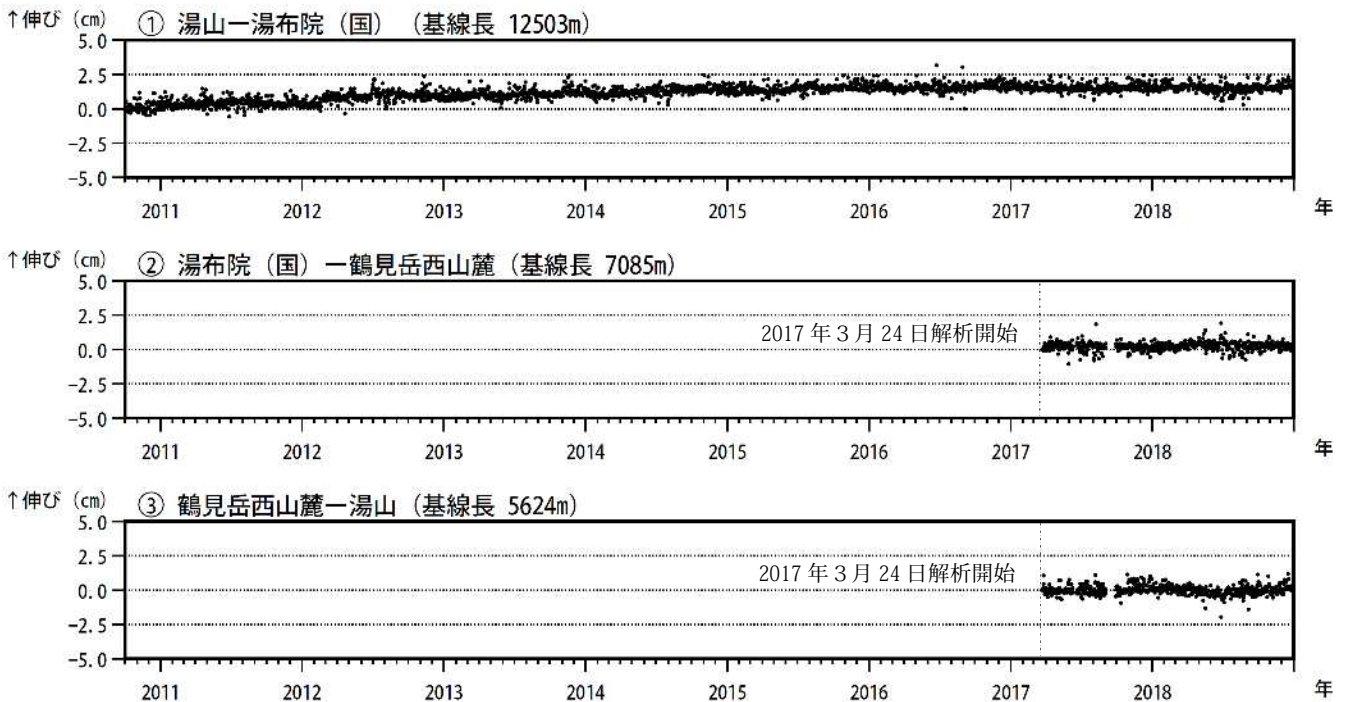


図 4 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2018 年 12 月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

この基線は図 5 の①～③に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

2016 年 4 月 16 日以降の基線長は、平成 28 年（2016 年）熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正しています。

(国)：国土地理院

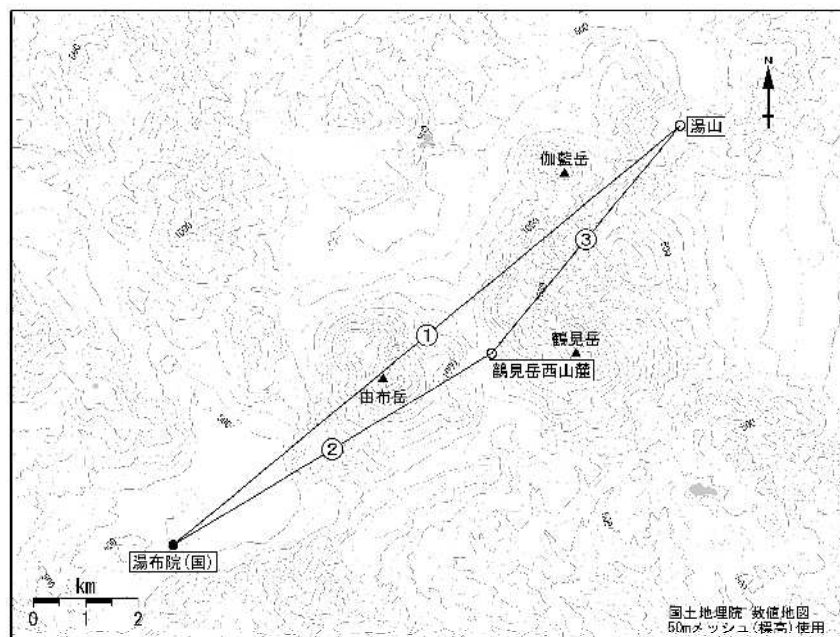


図 5 鶴見岳・伽藍岳 GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院

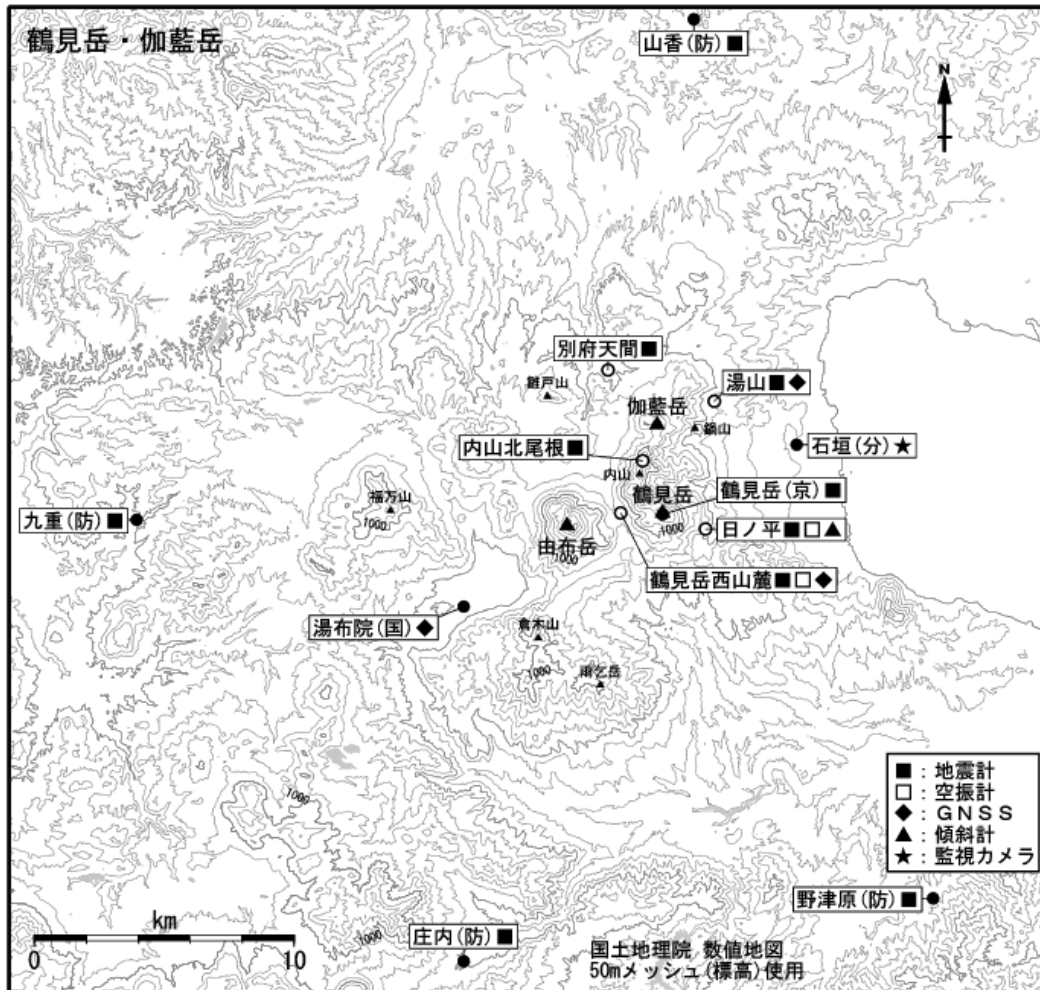


図6 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 （国）：国土地理院、（京）：京都大学、（防）：防災科学技術研究所、（分）：大分県